

社会福祉法人順和会

陽ノ丘荘だより

発行

〒869-1404

阿蘇郡南阿蘇村河陽
4463番地

社会福祉法人 順和会
特別養護老人ホーム
陽ノ丘荘

TEL 0967(67)2500

FAX 0967(67)2503



社会福祉法人 順和会
陽ノ丘荘居宅介護支援事業所
所長 長野 哲敏

平成二年九月の陽ノ丘荘開所からお世話になり、定年まで二年をきりました。その間、結婚、子育て、両親との別れがあり、そしてまた、たくさんの人達との出会いもありました。福祉の世界にまったり縁のなかつた私がこれまでやってこれたのも、職場の仲間のおかげだと感謝しています。

三人の子供達も成長し次男が高校三年で、毎年のように続いた受験も来年でやっと最後になりました。その次男は小学一年から、今年六月の高校総体まで剣道を頑張ってくれました。中学までは部員数も少なく、ありがたい事に主将、そして試合の時には大将として経験を踏む事ができました。時に厳しい練習を見て親が涙する事もありましたが、当の本人は弱音をばく事もなく「やめようと思わない。監督には感謝している。」との言葉を聞いた時は、ホッとすると同時に我が子の成長と逞しさを感じたものです。

皆さんも毎日の生活や仕事の中で、やりきれないと思う事が度々あるかもしれません。しかし、それを乗り切り、続けていく事で、自分も成長しその後には生かされるのではないのでしょうか。

息子が高校に入学し、剣道部の同級生を見ると、父親が剣道経験者や指導者も多く強敵ぞろいでした。田舎の学校で、競争する事もなく試合に出ていた頃とは大違いで、部内戦での結果がよくなければレギュラーにはなれず、練習試合でもBチームどまり。公式戦で何度か選ばれましたが、一番で出たいであろう高校総体ではメンバーに選ばれる事なく、毎年応援でした。今年の総体が終わった夜、所用で出かけた車の中で、妻が泣きながら話してきました。「他の皆と同じように一生懸命やってきたのに悲しいね。」私は高校の部活動は実力主義でこういうものと思っていました。ただ、正直、つらさはありません。ただ、子供の方が私や妻よりもっと悔しかったはずに違いありません。「しっかりとやれば、続けるよければ、いつかは必ず結果は出る。」と口癖のように言い聞かせていました。それがかなう事はありませんでした。

しかし、彼は剣道の結果より、もっと大切なものを手に入れたのではないのでしょうか。知り合いない学校に入り、大丈夫かと心配していた私でしたが、今彼の周りにはたくさん仲間がいます。そして彼のおかげで、私にも一緒に酒を飲める新しいたくさん仲間ができました。親子とも素晴らしいチームワークの二年半でした。親同士の付き合いはこれからも続けていくつもりです。

福祉の分野においては、今回介護保険制度の見直しがありました。利用者や家族にとっても、私達介護事業所にとっても、非常に厳しい改正となっています。ただ、福祉の仕事に終わりはありません。制度に逆らう事はできませんが、思いやりや優しさ、時には犠牲的な気持ちを持って、残された期間を仲間とともに一生懸命頑張っていきたいと思っております。

